

祇園祭をごみゼロに！世界に誇れる祭をつくるために



ごみゼロは宵山の
あたらしいお作法です。



祇園祭ごみゼロ大作戦実行委員会

運営事務局：NPO法人きょうとNPOセンター／NPO法人地域環境デザイン研究所ecotone

京都市中京区三条通烏丸西入御倉町85-1 烏丸ビル2階 Flag三条

TEL：075-744-0590 FAX：075-744-0945 MAIL：info@gion-gomizero.jp

<http://www.gion-gomizero.jp>

祇園祭 ごみゼロ 検索



祇園祭ごみゼロ大作戦 2014 実施報告書

祇園祭ごみゼロ大作戦 2014に ご参加、ご協力いただいたみなさまへ

みなさまと共に築き上げた、祇園祭ごみゼロ大作戦。

献身的かつ主体的に活動いただいたボランティアスタッフのみなさま、

リユース食器を導入し、ともにごみ減量を実践した屋台のみなさま、

リユース食器の返却や資源の分別回収にご協力いただいた来場者のみなさまに

心よりお礼申し上げます。

また、運営にご理解ご協力いただきました京都市民や事業者のみなさま、

取組を支えていただいた多くの寄付者やスポンサーのみなさまをはじめ、

関係する全てのみなさまに心から感謝申し上げます。

本当に、ありがとうございました！



CONTENTS



- 01 はじめに
- 02 実施概要
- 03 リユース食器とは
- 04 レポート(ごみの組成)
- 06 レポート(エコステーション、ボランティア、運営本部)
- 08 レポート(来場者、まちの様子、露天商)
- 10 事前広報
- 11 制作物
- 12 シンポジウム報告
- 13 主催・後援・協賛／協力・賛同団体

※写真の一部はボランティア写真家集団(笠井亨・裕美子／柴田明蘭／金城泰哲)によって撮影されました。

はじめに

祇園祭の山場となる山鉾巡行前の宵山行事期間中は、国内外から多くの来場者が訪れ、四条烏丸を中心とした山鉾町界隈に立ち並ぶ夜店や屋台を楽しみます。しかし、来場者数に比例して課題となるのが廃棄物であり、以前に比べマナーやモラルの向上から散乱ごみなどは減ったものの、可燃ごみの量は増える一方で、環境負荷が大きくかかっていることが問題となっていました。

そこで2014年、夜店や屋台の協力のもと、日本初、そして世界初の試みとして、約21万食分の使い捨て食器をリユース食器に切り替える活動を展開し、ごみの減量や地球温暖化防止に向けて大きな成果を残すことができました。今回、この初めての試みの結果を「報告書」としてまとめました。

京都議定書策定の地から本取組を発信することは、祇園祭の屋台文化を環境配慮型に変えるだけでなく、全国の祭や市民のライフスタイルを大きく変えるきっかけになることにつながると考えています。しかし、まだ課題は山積みです。“ごみをゼロにする”本活動をさらに発展させていくため、実行委員会では今年度の反省を踏まえ、2015年の取組をしっかりと進めてまいります。

最後になりましたが、「祇園祭ごみゼロ大作戦2014」開催に対し、ご支援・ご協力頂いた関係するすべての皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後のさらなるご理解とご支援をお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。

祇園祭ごみゼロ大作戦実行委員会
実行委員長 新川耕市(京都環境事業協同組合 理事長)

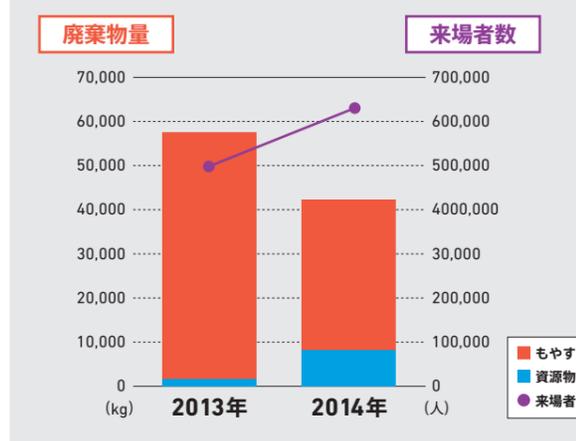


実施概要



祇園祭宵山行事期間に発生するごみの量はおよそ60トン。屋台や夜店、コンビニ、ファストフードショップなどから販売される食品や飲料などの容器包装は、およそ60万食分発生することがこれまでの調査で明らかとなっており、容器包装のごみ減量が必要不可欠な状態となっていました。そこで「祇園祭ごみゼロ大作戦2014」では繰り返し何度も洗って使用出来る「リユース食器」をまずは屋台を運営する露店商さんの協力のもと約21万食分導入しました。本取組はのべ2,000人を超えるボランティアスタッフの協力を得て、四条通や烏丸通など主要な場所にリユース食器の回収やごみの分別回収を行う「エコステーション」を配置し、ごみの減量を呼び掛けました。

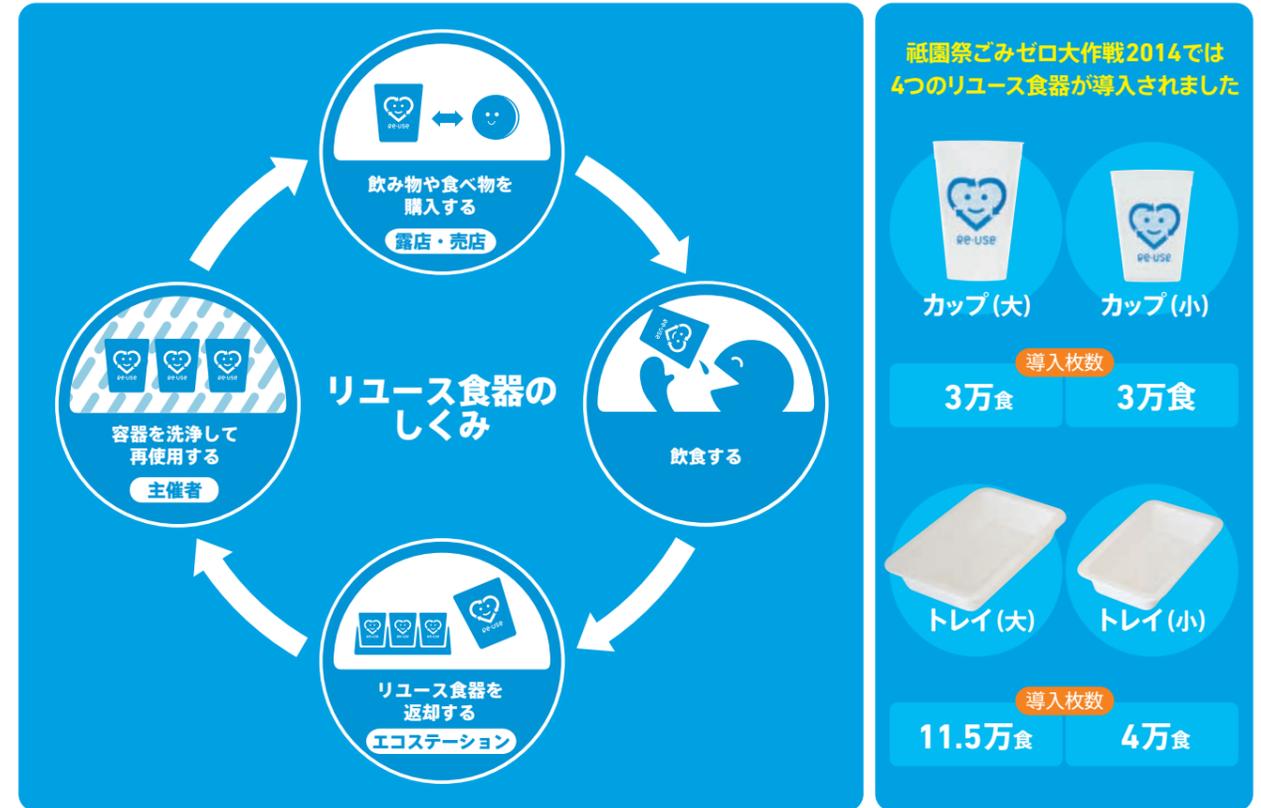
**来場者数は24%増えましたが、
全体の廃棄物量は25%減りました！**



	2013年	2014年
資源物	1,550kg	8,130kg
もやすごみ	55,780kg	34,430kg
全体の廃棄物量	57,330kg	42,560kg
来場者数	500,000人	620,000人
1人あたりのごみ量	114.66g	68.65g

実施日	2014年7月15日(火)～16日(水)
会場	錦町一帯
実施内容	祇園祭のリユース食器オペレーションの実施 祇園祭飲食出展者へのリユース食器貸し出し 資源の分別活動 散乱ごみの清掃活動
来場者数	約62万人(15日:28万人、16日34万人) ※参考 昨年度(15日:23万人、16日27万人) 京都府警発表より
ボランティア参加者	約2,000人
運営本部	1箇所(産業会館1F 元操車場)
運営サブ本部	3箇所(サブ本部1:産業会館1F元操車場、サブ本部2:りそな銀行京都支店前、サブ本部3:烏丸ビル2F Flag)
エコステーション	32箇所設置
リユース食器導入	21万5千個・枚(内訳:カップ大3万食、カップ小3万食、トレー大11万5千食、トレー小4万食)
リユース食器紛失・破損	約45,152個・枚(約21%)
リユース食器導入露店数	212店舗 ※食器使用メニュー提供の露店約300店舗中(全露店数は約600店舗)
廃棄物処理量	42,560kg(内8130kg資源物) ※参考 昨年度 57,330kg(内1550kg資源物)

リユース食器とは



リユース食器は屋外で使用する事が多いため、落としても鋭角的に割れない素材として、プラスチックの中でも柔軟性に富むポリプロピレン(PP)製のものが主流となっています。ポリプロピレン(PP)製の容器は耐熱温度が120℃、耐冷温度は-30℃で、100回程度再使用する耐久性があります。リユース食器を使用することで、使い捨て容器のごみが削減できることはもちろん、繰り返し使用すればするほど二酸化炭素排出量、エネルギー、水などの使用量を削減することにつながります。ライフサイクルアセスメント(LCA)の結果、リユースカップの使用回数による環境負荷の低減効果は、固形廃棄物は4.7回以上、二酸化炭素排出量は2.7回以上、水消費量も2.7回以上、エネルギー消費量は6.3回以上再利用すると紙コップよりも環境負荷が低減されるという結果が出ています。



洗浄作業の様子 (協力: 南山城学園)

洗浄について

使用されたリユース食器は、ボランティアスタッフがエコステーションにて回収後、汚れたままコンテナに梱包し、一旦倉庫に運送。その後、社会福祉法人南山城学園さんとNPO地域環境デザイン研究所ecotoneの協力のもと、洗浄作業を実施しました。

リデュース、リユースの取り組みのひとつであるリユース食器は、使い捨て容器に替えて導入する繰り返し洗って再使用(リユース)する食器の総称です。

レポート(ごみの組成)

祇園祭山鉦連合会提唱のもと「祇園祭クリーンキャンペーン」がこれまで展開されており、統一したダンボール製の分別回収ボックスが用意されています。分別種は「缶」、「ペットボトル」、「その他」の3種類で、今回はこれに、「リユース食器」の回収を追加しました。リユース食器についてはエコステーションのみでの回収と位置づけ、屋台や無人の分別回収ボックスでは回収がされていません。

エコステーションはボランティアスタッフ配置のもと、祇園祭会場の主要な場所に目立つよう配置しましたが、それ以外の細い通りや、歩道沿いなどにも、町内の方々が例年の慣例により無人の分別回収ボックスを設置しています。エコステーションでは、ボランティアスタッフが分別の誘導を行っていますが、それ以外の場所との分別協力率には大きな違いがあると考えられるため、今回の調査対象としました。

ごみの組成調査概要 (ひのでやエコライフ研究所さんに調査委託を行いました)

- サンプリング日程 — 2014年7月16日(宵山)
- サンプリング量 — 会場内のごみ袋22袋(合計127kg)
- 組成調査日程 — 2014年7月17日
- 分別回収について — 「その他」区分に関するエコステーションと無人ごみ箱の重量組成



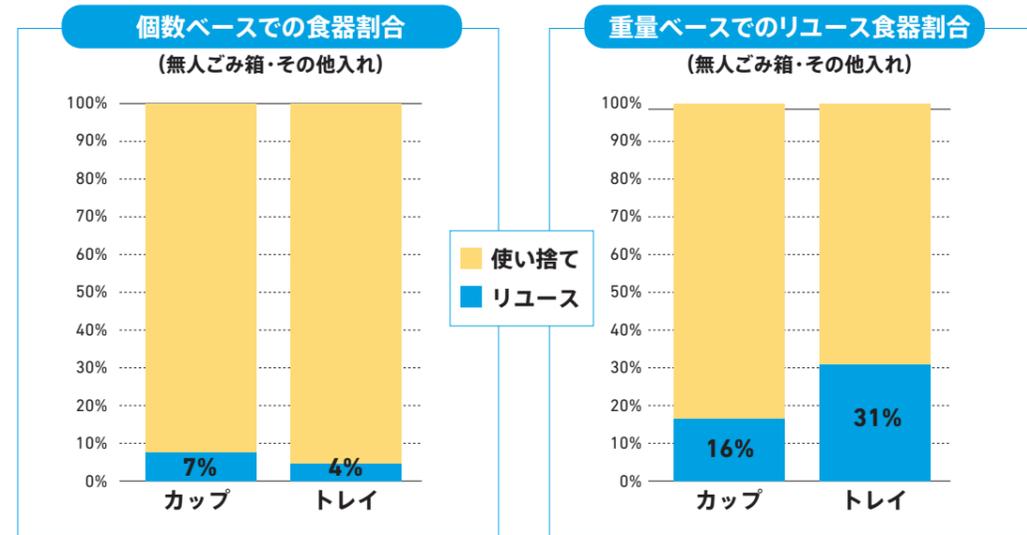
エコステーション



祇園祭クリーンキャンペーンによる分別回収ボックス3種

調査結果

分別回収について(「その他」区分に関するエコステーションと無人ごみ箱の重量組成)

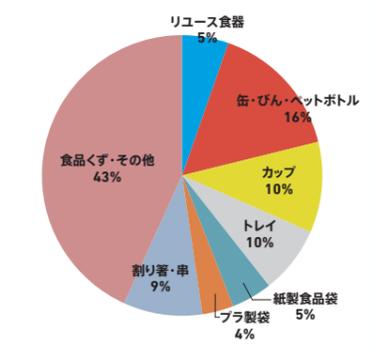


無人のごみ箱に捨てられているリユース食器は、カップ、トレイ(木舟皿含む、紙含まない)ごとに、使い捨て食器とリユース食器の比率をみると、個数ベースでリユース食器はカップの7%、トレイの4%占めており、大部分は使い捨て食器が捨てられていました。エコステーションへの回収がない場合は、この割合がリユース食器の利用割合と考えられますが、実際にはエコステーションまで持参する来場者も多くいたと考えられるため、「少なくともこの割合はリユース食器の利用があった」ことを示す割合といえます。しかし一方で、リユース食器は重量があるため、重量ベースでみると、カップとして捨てられたごみの16%、トレイの31%がリユース食器となり、大きな割合を占めていることがわかりました。今年度の調査から、無人のごみ箱はなるべく設置せず、有人のエコステーション設置を積極的に進めることが、リユース食器の回収率改善につながり、ごみゼロに近づくと考えます。

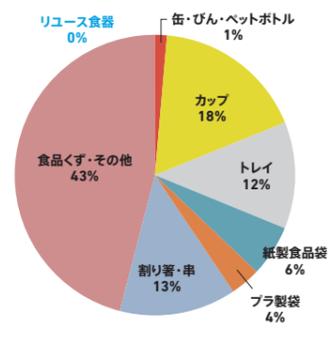


組成調査のうち、廃棄されていたリユース食器

無人の「その他ごみ」の組成(湿重量)

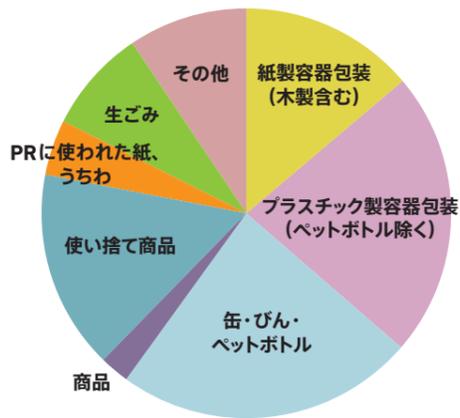


エコステーションの「その他ごみ」



- 無人のごみ箱には、リユース食器が捨てられていることがわかりました。ごみ袋1袋あたり、平均5個のリユース食器混入がありました。(重さで5%)
- リユース食器は、約1t廃棄されている計算です。
- エコステーションのごみ袋には、リユース食器は捨てられていませんでした。
- 3つ揃っている分別ボックスでは、無人であっても、缶やペットボトルにリユース食器の混入はほぼありませんでした。

2012年に実施された既存の調査との比較をみると「生ごみ+その他」の割合が大きく、「使い捨て商品」に相当するものの割合が小さくなっています。



祇園祭の「その他」ごみの細組成調査結果の概要(湿重量ベース)



組成調査のうち、廃棄されていたリユース食器

組成調査の様子

祇園祭来場者100人アンケート

- Q 今年からリユース食器の導入されるのを知っていますか?
はい33% いいえ67%
- Q リユース食器を使用しましたか?
はい39% いいえ60% 無回答1%
- Q リユース食器を利用して初めての感想(N=40)
よかった72% どちらでもない25% よくなかった3%
- Q 使ってみて気になった点はありますか?(複数回答)
容器が使いにくい3% 回収場所が少ない18% 返却が面倒10%
- Q リユース食器の取り組みが広まった方がいいと思いますか(N=40)
広まったほうがいい91% どちらでもない7% やめたほうがいい2%



レポート(エコステーション、ボランティア、運営本部)

活動風景・エコステーション

設置場所に合わせた大きさのエコステーションを各所に設置。
リユース食器の回収、資源の分別回収、散乱ごみの清掃活動拠点として稼働しました。



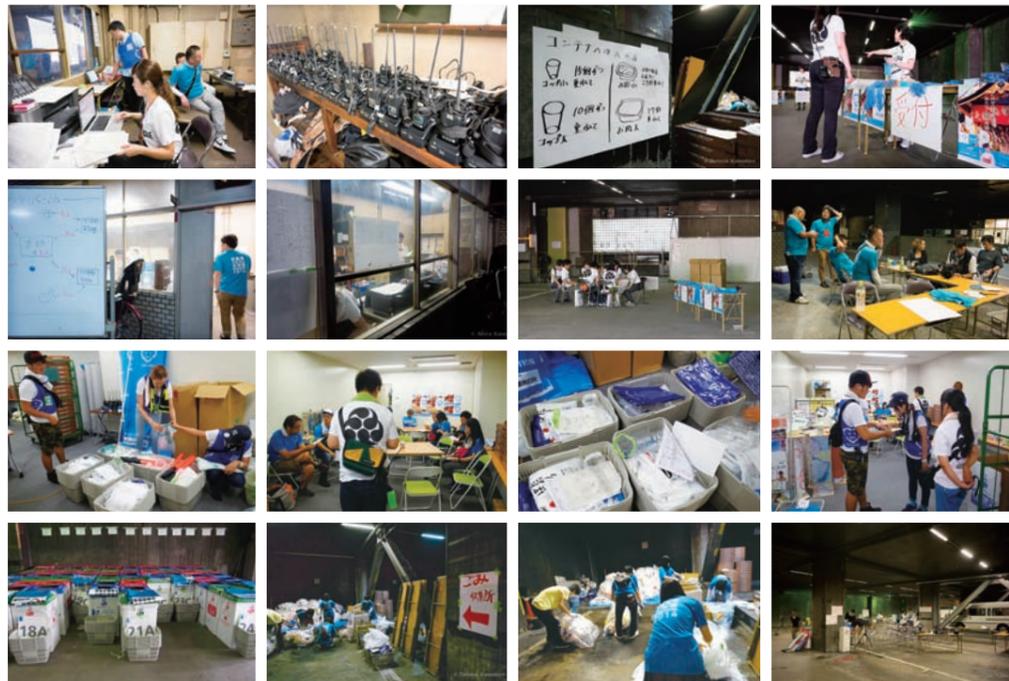
ECO STATION MAP エコステーションマップ



エコステーションは32箇所設置しましたが、当日の現場状況から、無人のごみ箱にボランティアを配置し、簡易のエコステーションを多数設置しました。

運営本部

- ◎本部・サブ本部1 (産業会館1F 元駐車場)
- ◎サブ本部2 (りそな銀行前)
- ◎サブ本部3 (烏丸ビル3F Flag)



ボランティアスタッフ

約2,000人のボランティアスタッフが集まり、主体的な活動によって大きな成果を得ることができました。



大きなプロジェクトに最初から関わったことが誇りです！
なかなか社会は変わらないけど、みんなで取り組みれば少しでも変わると思えました！参加した多くの方もそう思っていたら、今後も活動が続き、ごみゼロが実現していくと思います。

社会貢献活動の一環として毎年、祇園祭でゴミ拾いの活動をしています。今年のごみの種類によってごみ箱の入り口が違ってわかりやすいので分別できていますね。

大和ハウス工業株式会社のみなさん

来年の学校祭でリユース食器を使用したいと思っています！今回は運営の仕方を学びにきました。

龍谷大学政策学部
大学院政策学研究科のみなさん

京都市ではごみ半減を目標にしています。祇園祭では皆様のご協力の結果、ごみを半減することが出来たので、皆でやれば京都市のごみ半減も夢ではないと思います！

京都外国語大学西高校
ユネスコ同好会のみなさん

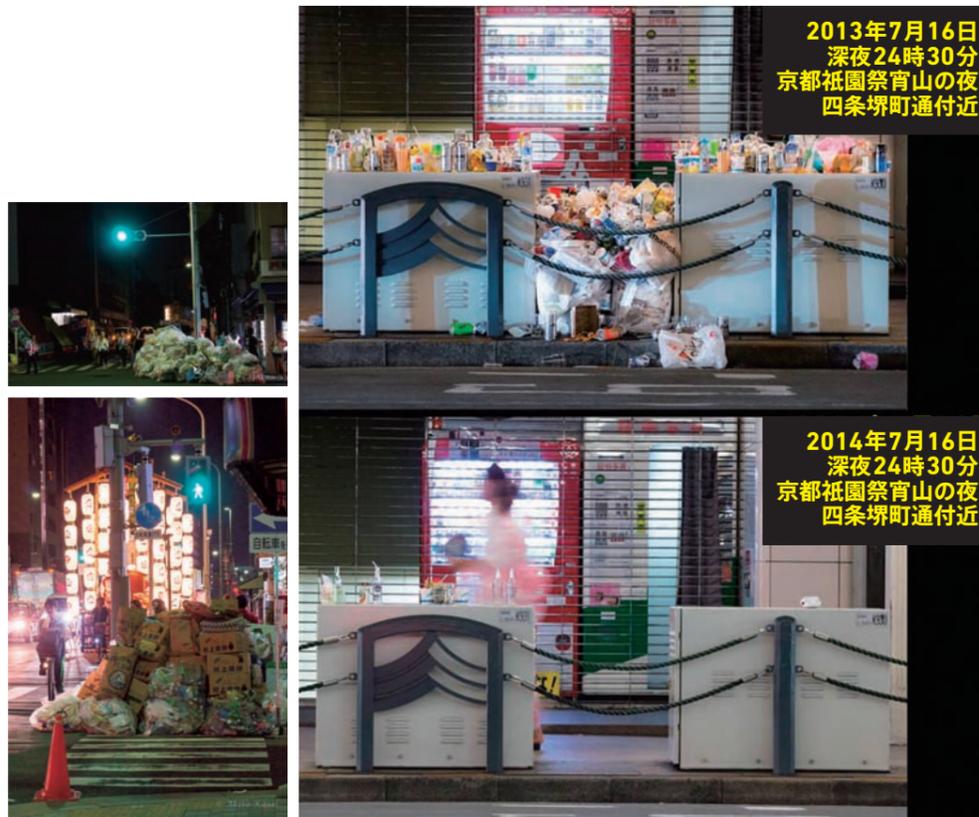
京都市環境政策局
環境型社会推進部ごみ減量推進課のみなさん

取材協力：京都市市民活動総合センター発行「hotpot」

レポート(来場者、まちの様子、露店)



お客さんの中にはリユース食器を選んで買う人の姿も。



地域の方からは「これまでに見たことがない程きれい」「ごみが減った」「整理されている」との声をいただきました。



露店店頭用POP [A3]

リユース食器導入店舗には共通POPの掲示を行いました。



露店商の協力のもと、210店舗/日にリユース食器を導入し販売を行いました。



来場者の声

室町通など細い路地ではリユース食器の返す場所が分かりにくかった。(カップル)

ごみゼロのことはバスや電車内の広告で知っていた。フェスでもよく使っているのは見る。エコでいい。(学生)

ごみゼロのことは仕事先(カフェ)で聞いて知っていた。違和感なく使っていた。(親子)

取材協力：京都市市民活動総合センター発行「hotpot」

事前広報

パブリシティ(新聞/雑誌/TV/ラジオ/Web/その他)の一部をご紹介

新聞/雑誌掲載・朝日新聞・京都新聞・毎日新聞・読売新聞・中日新聞・西日本新聞・北海道新聞・東京新聞・ソトコトなど



京都市内を走る198台のバックカー車に
バナーを掲出していただきました。
期間:7月3日(木)~16日(水)
協力:京都環境事業協同組合



広報制作物



Webサイト



制作物

制作物一覧/エコステーション



ボランティアスタッフグッズ



シンポジウム報告



本年度の取組みの総括および各地域に波及させる事を目的としたシンポジウムを実施しました。ボランティアスタッフの方をはじめ、寄付者の皆さま、各協力団体の皆さまに参加を呼びかけ、当日は約100名に会場いただきました。実行委員会より「祇園祭ごみゼロ大作戦2014」の概要紹介を行ったあと、効果検証のための調査結果報告後、2つのパネルディスカッションを行い、登壇者や参加者からさまざまな意見がのべられ、祇園祭はもとより、今後のさまざまなイベント運営のごみ対策について考えるきっかけの場となりました。

開催場所 池坊短期大学 ころろホール(洗心館地下1階)

日程 2015年1月11日(日) 13:30 - 16:30

参加者 約100名

ゲスト 門川大作さん(京都市長)

大嶋博規さん(祇園祭山鉾連合会 理事)

間澤孝公さん(富士ゼロックス京都株式会社 文化推進室)

井上春香さん(京都府府民生活部府民力推進課 協働コーディネーター)

大関はるかさん(ひのでやエコライフ研究所)

井上和彦さん(京のアジェンダ21フォーラム 事務局局長)

ほか

●パネリストの声

- 初年度の取組としては100点だと思います。将来的に、出店店舗がリユース食器のみで販売するようなルールを検討したいですね。また、クリーンキャンペーンの分別回収ボックスはダンボールでなくリユース出来るものへの変更が必須だと考えます。(門川市長)
- 1,100年の歴史がある祇園祭。京都市民のものを大切にしている精神がこの祇園祭を継続させてきています。この祇園祭で、ごみゼロ大作戦が行われていることはとてもいいですね。ただ、エコステーションも景観をもう少し考える必要があるのでは？(大嶋理事)
- ボランティアを行っている時、祭についての問い合わせも多く受けました。祇園祭の祭り案内もボランティアに配り、その役目も担うのはどうだろうか？(間澤さん)



●参加者の声

- 祇園祭にごみゼロ大作戦が入ることで、色んな立場の人が改めて、京都やエコ、祇園祭について見直したり、リユースを通じて新たな価値観が放りこまれたこと。この取組が、きっと大きなうねりになるのではと考えさせられました。
- 全体総括及び、具体的な振り返りを聞くことができ、参考になりました。ボランティアコーディネーションの観点からの話をもっと聞きたかったです。(ボランティア自身+コーディネーターの声など)



主催

祇園祭ごみゼロ大作戦実行委員会

(美しい祇園祭をつくる会、NPO法人きょうとNPOセンター、京都環境事業協同組合、京都市、NPO法人京都府地球温暖化防止活動推進センター、五条露店商組合、NPO法人地域環境デザイン研究所 ecotone、京のアジェンダ21フォーラム)

後援

京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都市観光協会、京都商工会議所、京都経済同友会、京都中小企業家同友会、NHK京都放送局、関西テレビ放送、毎日放送、京都新聞、朝日新聞京都総局、毎日新聞京都支局、産経新聞社京都総局、日本経済新聞社京都支社、共同通信社京都支局、時事通信社京都総局

協賛/協力

【協賛】有限会社エコティック山根商店、乙訓環境事業協同組合、オムロンクレジットサービス株式会社、有限会社加藤商店、京滋ヤクルト販売株式会社、京都乙訓ロータリークラブ、京都環境事業協同組合、京都環境事業株式会社、株式会社京都環境保全公社、京都醍醐ライオンズクラブ、京都市向日市激辛商店街、京都有機質資源株式会社、株式会社木下カンセー、島雄機設株式会社、新川耕市、有限会社大工商店、株式会社タカノ、高野清掃株式会社、株式会社辻商店、有限会社西山産業、有限会社パッカーズ、有限会社平塚商事、株式会社Fujitaka、有限会社芙蓉電設、株式会社PLUS SOCIAL、有限会社丸喜運送、株式会社御池鐵工所、安田産業株式会社、六基流空手会、株式会社ワールドエンジニアリング、その他

【協力】公益財団法人京都地域創造基金、株式会社グリーンアップル

賛同団体

アマタホールディングス株式会社、認定NPO法人環境市民、認定NPO法人気候ネットワーク、NPO法人木野環境、NPO法人京都・雨水の会、京都カーフリーデー実行委員会、京都グリーン購入ネットワーク、認定NPO法人きょうとグリーンファンド、NPO法人京都コミュニティ放送、公益財団法人京都府環境保全活動推進協会、京都市ごみ減量推進会議、近畿労働金庫、社会福祉法人京都市社会福祉協議会、公益社団法人京都青年会議所、京都府生活協同組合連合会、一般社団法人京都ボランティア協会、一般財団法人京都ユースホステル協会、NPO法人KES環境機構、NPO法人コンシューマーズ京都、自治労京都府本部、一般社団法人市民エネルギー京都、NPO法人循環共生社会システム研究所(KIESS)、Slow "mobility" Life Project 日本、環境保護国際交流会(J.E.E)、バタゴニア京都、有限会社ひのでやエコライフ研究所、ふるしき研究会、ROOTOTE / 株式会社スーパープランニング



本報告書は環境省の「平成26年度二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金(地域における草の根活動支援事業)」を受けて作成しました。